

くまもと農地GISを活用した『田んぼダムの取り組み』の「見える化」等について紹介します。

今回紹介する団体：熊本県、水土里ネット熊本

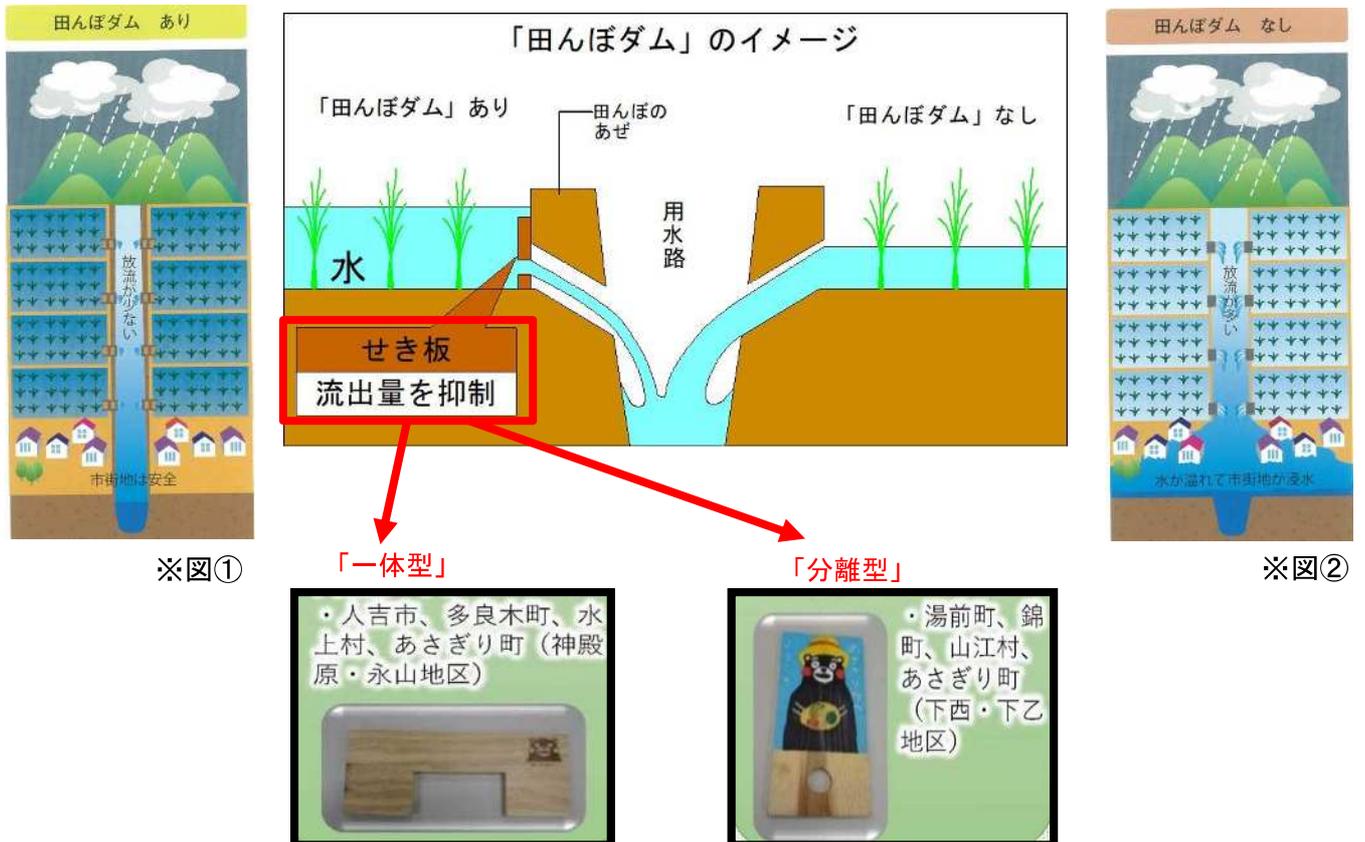
取組概要

・くまもと農地GISの活用

内容： 令和2年7月豪雨災害を受けて、熊本県は知事を先頭に、従来の治水対策と併せて、流域のあらゆる関係者の協働による「緑の流域治水(グリーンニューディール)」の取り組みを進めている。その対策の一つとして、流域に広がる水田の貯留機能等を最大限に活用した「田んぼダムの取り組み」の普及・拡大を推進している。

経緯： 「田んぼダムの取り組み」においては、水田が有する貯留機能等を発揮させるために、通常の水田の排水柵に田んぼダム専用のせき板を設置する必要がある。

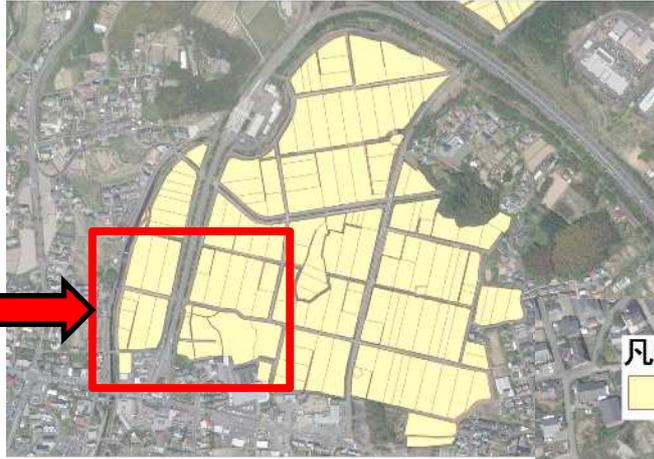
そのため、普及活動と併せて正確にせき板が設置されているか否かについても詳細に把握する必要があったことから、モデル地区の水田約300haについて、現地調査を行い、その結果をくまもと農地GISで一元管理を行い、普及状況等の見える化を行った。



※図①・図②参考文献—農文協（多面的機能支払い 活動実践マニュアル7）

取組による効果

①田んぼダム取組み農地状況



②の拡大図

「図面凡例」

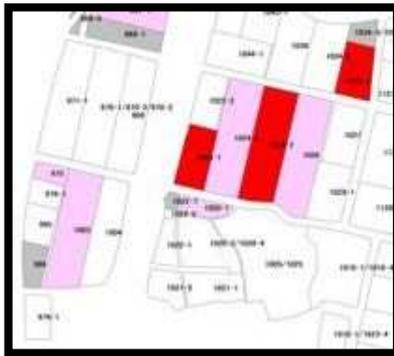
凡 例		
門 型	正しい方法で設置	①-1
	間違った方法で設置	①-2
穴あき型	正しい方法で設置	②-1
	間違った方法で設置	②-2
拱無し型	正しい方法で設置	③-1
	間違った方法で設置	③-2
未 設 置		④
対象外の筆		⑤
水位計設置箇所		●

凡例

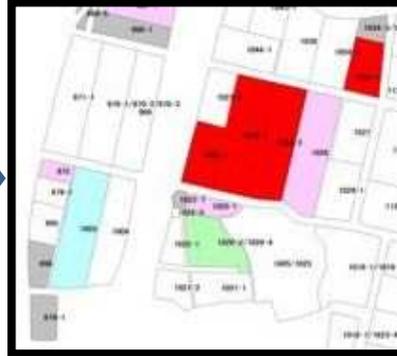
田んぼダム取組農地

②田んぼダム堰板設置状況の見える化

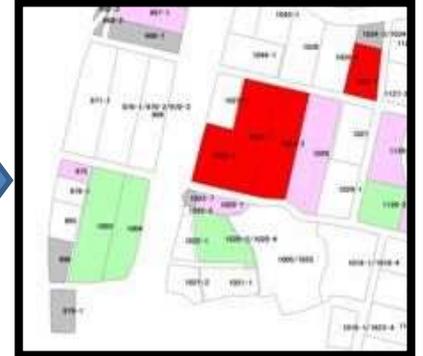
「7月調査」



「8月調査」



「9月調査」



今後の活用予定

農地情報を有する『くまもと農地GIS』を活用し、田んぼダムに取り組む農地における農作物への影響や収穫量等について調査し、調査結果の情報を登録することができるよう、取組農地の情報を一元的に管理する環境を整えた。

調査結果はGISにより見える化し容易にデータ集計することで、取組地域の状況把握と課題を明確にし、効果的な普及啓発に繋げることで、取り組みを加速化する予定である。

GISシステムのバージョン情報

Arc GIS Engine 10.3.1 (水土里GISLight)

■お問い合わせ先

熊本県土地改良事業団体連合会 会員支援課水土里情報係

096-348-8802(直通)